

普及活動情勢報告

(各月の普及の動き毎月25日までに報告)

普及活動情勢報告（平成25年8月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

南国市農家レストラン「まほろば畑」総会



各班でのワークショップ風景

7月9日、3回目の総会が開催され、32名が参加しました。農業改良普及課は、「まほろば畑」の課題の抽出のためにワークショップを提案し、ファシリテーターを務めました。

ワークショップでは、5グループで「喜び」と「悩み」について意見を出しあい最後に発表し、参加者全員が「喜びと悩み」を共有しました。

参加者の「悩み」は、「来客数が読めない、長時間労働、作業の効率化」等が挙げられました。

農業改良普及課では、出された「悩み」が解消できるように、今後役員会や研修会等で改善策を検討し、実践できるように支援していきます。

J A土佐香美かりかり桃研究会が出荷検討会を開催



光センサーで糖度を測定する生産者

7月18日、J A土佐香美かりかり桃研究会は、香北支所で出荷検討会を開催し、生産者10名が参加しました。

まず、持ち寄った果実サンプルを卓上型非破壊光センサーで糖度を測定した後、果肉硬度や食味を調査しました。

次にJ Aより、出荷規格や時期、注意点が提示され、農業改良普及課からは、夏季剪定や礼肥など、収穫後の栽培管理について情報提供しました。

参加者からは、「今年は梅雨明けが早く、やや小ぶりだが糖度は高い」「規格外品の加工について検討してもらいたい」などの声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携しながら、研究会活動を支援していきます。

夜須フルーツトマトの安定生産を目指して栽培講習会を開催



講習会の状況

7月25日、J A土佐香美夜須支所でフルーツトマト部会の栽培講習会が開催され生産者13名が参加しました。

トマト栽培では、毎年、灰色かび病による株枯れや草勢の急激な低下による不結実、尻腐れ果等が多発しており、これらの発生を軽減し、出荷量を安定させたいと考えています。

このため、農業改良普及課は、換気に重点を置いた灰色かび病防除、草勢を弱らせないための管理について情報提供しました。

農業改良普及課では、これらの課題を一つ一つ確実に解決していき、フルーツトマト部会の経営安定を支援していきます。

直販所の栽培講習会を開催



資料を説明する普及指導員

8月2日、香美市立保健福祉センター香北で、協同組合「菰生の里」、良心市利用組合を対象に栽培講習会を開催し、43名が参加しました。

農業改良普及課は、事務局に対して学校給食への供給量を増やすための会議開催を提案し、役割分担をして実施しました。

始めに事務局から、平成24年度の地元農産物の利用割合をもとに、品目や時期によっては供給量を増やすことが可能であることを紹介してもらいました。

農業改良普及課からは、利用量上位9品目の作型や品種、土づくり、太陽熱処理、育苗方法などを紹介して、生産拡大を呼びかけました。

参加者からは、「この取組に積極的に参加したい」という声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も直販所が軸となって地域が活性化する取組を提案していきます。

菰生米研究会の視察研修



J A 四万十との意見交換

8月9日、「菰生米」の復活に向けて組織化した菰生米研究会は、四万十町における「仁井田米」の有利販売に向けた取り組みを調査するため、13名の生産者が視察研修を行いました。

農業改良普及課では、香美市営農対策協議会水稻部会の活動を活性化するために予算化を依頼し、視察先を選定するなど、研修会の開催を支援してきました。

J A 四万十の担当者との話し合いでは、食味値に固執することなく、粒張りを良くする施肥方法や、刈り取り後の稲藁の処理方法など、活発な意見交換が行われました。

今後、農業改良普及課では刈り取り適期の周知や、「菰生米」の品質把握に向けて支援していきます。